

発問の工夫・精選を通じた「感動、畏敬の念」の理解の支援

— 小学校道徳科における「花さき山」を活用した模擬授業の分析を通じて —

宮本浩紀*・小林伸彦**・石井孝典***・生井沢慎之助***・齊藤優介***

(2025年3月7日受理)

Supporting the Understanding of “Wonder and Awe” through Thoughtful Selection of Questions: Through the Analysis of a Simulated Lesson on 'Hanasakiyama' in Elementary School Moral Education

Hiroki MIYAMOTO, Nobuhiko KOBAYASHI,
Takanori ISHII, Shinnosuke NAMAIZAWA and Yusuke SAITO

キーワード: 特別の教科 道徳, 発問, 小学校, 模擬授業, 「感動、畏敬の念」

現在、「特別の教科 道徳」(以下、「道徳科」とする)において、「考え、議論する道徳」が進められているところであるが、いまなお、道徳の教科化以前から続けられてきた道徳授業における課題への対応が求められる。それは、子どもにとって身近ではない道徳的価値の理解・思考の支援である。

二十項目前後ある「内容項目」のうち、本論文が取り上げるのは、「感動、畏敬の念」である。中でも、今回注目するのは、その価値を学ぶ「花さき山」という道徳読み物教材である。教材を単独に読むこと、あるいは、当該道徳的価値を他の教材で学ぶ場合には、大きな問題は起こらないかもしれないが、「花さき山」を「感動、畏敬の念」という道徳的価値を通じて理解・思考することに関しては準備が必要となる。子どもたちに身近なことである「誰かのために」という行動を「美しいもの」という抽象的な言葉で理解する支援として、本論文では発問の工夫・精選に焦点を定める。

はじめに

本論文では、小学校の「特別の教科 道徳」(以下、「道徳科」)における「感動、畏敬の念¹⁾」という道徳的価値の理解を深めるために、どのような発問の工夫・精選が有効であるかについて考察する。具体的には、数十年にわたって学校教育で用いられてきた「花さき山」の模擬授業を分析することを通じ、「どのような問いかけが児童の思考を促すのか」について考察する。

「考え、議論する道徳」の実現に向けた教育内容の充実が求められる中、子どもによる多面的・

*茨城大学全学教職センター

**茨城大学教育学部

***茨城大学大学院教育学研究科

多角的な思考の重要性は一層重視されている。だが、抽象的な言葉（語）によってまとめられる道徳的価値は子どもにとって理解が難しい。特に本論文で取り上げる「感動、畏敬の念」という価値は必ずしも子どもたちの日常生活において頻繁に登場するものではないため、授業の展開次第によっては「頭ではわかるけれど実感がわかない」という状態に陥ってしまうことが考えられる。

そこで本論文では、まず第1節において、そもそも道徳科における発問の工夫がなぜ重要なのかについて考察する。次に第2節において、「花さき山」を用いた模擬授業を取り上げることで、どのような発問がどのような場面で機能したかについて確認する視点を持ちつつ、その効果と課題について検討する。

1. 道徳科において発問を工夫することの意義

(1) 「考え、議論する道徳」の実現に寄与する発問の工夫

道徳科の授業は、その展開によって、子どもが主体的に価値や自らの知識・経験について振り返ることができるかが変わる。近年文部科学省が求める、子どもが自ら問いを立て、自分なりの価値観を形成していく力の育成はその実現に大きく寄与するものといえる。

そうした学習観の変化は、授業における教師の役割の再考に結び付き、中でも教師の発問は子どもの思考の深まりや広がりにも寄与するものとして従来以上の役割が見出されている。ただ単に「感想を言いましょう」「この話から学んだことは何でしょう」といった一般的な問いでは、子どもたちの内面に深い思考や葛藤を喚起することは難しい。特に、子どもにとってあまり身近でない道徳的価値や題材について授業で学ぶ場合には、ともすると、例えば授業末尾の振り返りの時間において、授業内容を繰り返したものが記載されてしまう。理解・思考の安易な押し付けを避け、子ども自身が価値や知識や経験を問い直すことに資する発問が必要となる。

そもそもの前提として押さえておきたいのは、子どもたちは必ずしも、道徳科で活用される読み物教材の内容やそこで提示される価値にスムーズに共感するわけではないということである。もしかしら、教材の中心となる主人公や登場人物の言動に、心のどこかで違和感や疑問を持っている場合もある。たとえば「勇気を出して行動しよう」と言われても、「本当に自分ではできるのだろうか」、「どのような状況でも勇気を出すことはできるものなのだろうか」といった疑問をもつことも考えられる。そのとき、教師が「勇気を出すことは大切です」といった説明を行った場合、子どもは自分の疑問を言葉に表したり、クラスメイトと共有したりすることに行き詰ることになる。

そこで求められるのが、子どもがもつ素朴な問いを引き出し、理解・思考を促す発問の工夫である。文部科学省があげる「自己を見つめる」のように、「自分の経験やそのときの感じ方、考え方と照らし合わせながら、更に考えを深めること²⁾」に寄与する発問を構想することが大切である。要するに、発問の役割を、単に道徳的価値を学ばせるための補助や子どもの発言を促す手立てとしてのみ捉えるのではなく、子どもの疑問や興味を軸にして、価値に主体的に迫っていくための支援とみなす必要があるのである。

(2) 「感動、畏敬の念」を深めるための発問の工夫

道徳科で取り上げる道徳的価値はいずれも抽象度の高い言葉（語）である。ここで抽象度が高いというのは、それを言葉で説明する時に、自分の知識や経験に基づき生まれる視覚的な映像や自分の思いや考えや気持ちといったものを超えて、多くの人に共通して成り立つ在り方を備えていることを指している。中でも「感動、畏敬の念」は特に抽象度が高く、発達段階からいって、子どもはその語の表す内実を体験していないか、実際には体験しているものの日頃は意識されていない事柄が多く含まれている領域といえる。もちろん子どもでも、人によっては自然や芸術に触れたときに強く感動を覚えている子もいるはずである。その一方で、それほど感概を抱かない子もいることを考え合わせると、授業者は「感動、畏敬の念」のイメージが子どもの中に浮かぶためにはどうすればいいかという点での熟考が求められる。

たとえば「畏敬」とは、「恐い／怖い」という感情だけではなく、何がしかの「尊さ」を感じる心が含まれている。子どもが自然や人間の営みに触れ、「自分の力を超えた何かを感じる」「言葉ではうまく説明できないが、何だか心が動かされる」といった感覚に到るとき、その子には「畏敬の念」が生まれていると言ってよい。そのように多層の意味から成る「感動、畏敬の念」を理解するため、教師は子どもや教材に応じて的確な支援を行う必要があるといえる。

そのために気をつけなければならないことは、「学習指導要領解説」に記されたキーワードをどのように授業に生かすかである。例えば、「感動、畏敬の念」には「美しいもの」というキーワードが含まれているが、これについて直接授業で子どもに問いかけるのか、その言葉（語）が子どもから出てくるような資料（画像や動画や話）を用意するのか、いかなる授業展開を想定するかによって、子どもの内面にある感覚が揺り起こされるかどうかが変わってくる。本論文は、その中核に位置するものとして発問を取り上げるものである。以下、子どもが「あれ？」「どういうこと？」「なるほど！」といった思いをもつ発問の工夫について、「花さき山」を活用した模擬授業を分析することで迫ってみたい。

2. 「花さき山」を活用した模擬授業の分析

(1) 「花さき山」を活用するときのポイント

①教材のあらすじと活用の際の注意点

さて、本論文で取り上げた「花さき山」は数十年にわたって用いられてきた教材である。元々は、斎藤隆介（作）・滝平二郎（絵）の絵本が原作である。また、そのように長く用いられてきたことに起因して、「花さき山」について論じた書籍や論文、あるいはそれを題材とした授業の学習指導案は大変多く発表されてきた³⁾。

そのように長く用いられてきた有名教材である「花さき山」の魅力は、何と云っても、主人公である“あや”の発言や行動であろう。大人の目線でいうと、それは「けなげ」という言葉で表すことができるかもしれないが、子どもの中にはその言葉自体を聞いたことがない子も多いものと推察される。ということで、その「けなげ」に代わる言葉として、子どもが知っている言葉を探す必要があるが、まずもってその点で行き詰まってしまうかもしれない。

そのような場合は、登場人物の姿や読み物教材の内容を一言で言い当てることのできる言葉を探

すのではなく、登場人物と同様の行動や発言が目前の子どもに認められるかどうかを探ることになる。それについて確認するために、あらすじを参照しておく。

「花さき山」のあらすじ

あやは、家のお手伝いのため、山菜を取りに山に行きました。でも、そこで道に迷ってしまいました。すると、迷って歩いている内に、あやは山奥にとてもきれいな花がたくさん咲いている花畑を見つけました。きれいな花に見とれていると、あやの前にやまんばが現われました。もちろん、あやは驚きましたが、やまんばは「おどろくんでない」とあやに語り掛けます。やまんばの話は怖いものではなく、不思議と聞き入ってしまいました。その話によると、どうやら、あやの足元に咲いている赤い花はあや自身が咲かせた花だということでした。自分のことよりも妹を優先する気持ちが花として咲いたということです。その山には、他にもたくさんの花が咲いていました。家に帰ると、あやはその話を家族に話しましたが誰も取り合ってくれません。また一人で行って見たのですが、なぜか山は見つかりませんでした。それでも、その後も、あやはときどき、また花さき山におらの花が咲いているなど思ったのでした。

ここにあげた主人公の行動において、子どもたち自身が経験したことのある行動や発言、あるいは、どこかで見聞きした事柄は含まれているだろうか。おそらく、その答えを見つけるのは難しくはないはずである。「自分のことよりも妹を優先」という点は、子どもが自ら体験しているか、見聞きしている可能性が高いからである。これでひとまず、授業で確認すべき候補が見出された。

だが、ここでまた別の問題に直面する。それは、そのような主人公の行動を「感動、畏敬の念」という内容項目（及び、それによって示される価値の内実）と関連させて捉えることに関する障壁である⁴⁾。さて、主人公と同様の経験や知識のある子どもたちは、それを「感動、畏敬の念」に沿って理解できるものか。そのためにはどのような支援が必要なのだろうか。

②本教材で深めたい道徳的価値について

「感動、畏敬の念」は、人間が本来もっている豊かな情緒や想像力を引き出す力をもつ道徳的価値である。子どもが自然の風景、美しい花や動物、あるいは先人の偉業や芸術作品などに触れたときに覚える「圧倒されるような気持ち」は、道徳性に関わる感性に直接働きかける要素と考えられる。それは子どもが自分自身の存在を相対化し、世界の広がりや人間の可能性を実感する機会につながる。

こうした経験を積み重ねることで、子どもたちの理解や思考や感性は一層深まり、自分の理解を超えた存在に対する謙虚さや敬意が育まれることが目指される。また、身近なところでも「友だちや家族の優しさに気づいて感動した」「学校行事での仲間の頑張りにも動かされた」など、日常生活の中で「感動、畏敬の念」を味わう瞬間は意外と少なくない。道徳科の授業で同価値を扱うことは、日常の中に意識されることなく存在しているその機会を言語化することを子どもに求め、自分や他の人の行動、自然や社会への向き合い方についてさらなる理解・思考を得ることが期待される。

一方で、「感動」や「畏敬」があまりに抽象的な感覚に基づくものであるため、子どもによっては

言葉にうまくできずに黙り込んでしまうという状況が生じることも考えられる⁵⁾。教師が一方的に「この場面は感動的だね」という押し付けの気持ちを強く持つ場合、子どもと教師の間にずれや壁が生まれるおそれがある。

さらには、超自然的な事象が絡むと、畏怖や畏敬の感情はさらに複雑になる。「山の偉大さ」といったテーマの場合、居住地の近隣に畏怖や信仰の対象となる山が存在していれば、そのテーマの理解は容易であるかもしれない。だが、そのようなものがなく、例えば富士山を日本人の心の象徴として漠然と捉える子どもの場合、「世界には自分をはるかに超えた力をもつ山がある」という感覚をもつことはなかなか困難なものと言わざるを得ない。その場合、教師は、「どのような資料や物語、場面設定を用いるか」、そして「どのような手立てを講じれば、子どもが畏敬の念を少しでも感じ取ることができるか」について考えることは言うまでもないが、さらに大切なのは、「教師である自分自身はそのような畏怖すべき対象に触れたことがあるか」ということを自問自答することが必要となる。このように、扱う価値やテーマによっては、子どもと教師は普段の関係と異なり、より上下関係のないフラットさが生まれることも想定して授業準備に臨みたい。

(2) 本授業のねらいと展開

① 模擬授業の概要

本論文では、小学校四年生を想定して「花さき山」を活用した模擬授業を実施した。模擬授業には、県教育委員会より派遣された現職教員2名と学部卒のストレートマスター7名が参加した。「花さき山」を活用した本授業は、授業者としてストレートマスター3名、受講者として他の6名が参加した。さらに、本模擬授業をカリキュラムに組み込んだ講義を担当する大学教員2名も同席した(表1参照)。

表1 「花さき山」を活用した模擬授業の概要

<p>■日時：2025年1月30日(木) 10:35～12:20 ※茨城大学大学院教育学研究科教育実践高度化専攻の講義科目「教育臨床問題と道徳」(教育方法開発コースと児童生徒支援コースの融合科目)</p> <p>■場所：茨城大学教育学部A棟 A224 模擬授業室</p> <p>■参加者：教育方法開発コース5名／児童生徒支援コース4名</p> <p>■使用教材：「花さき山」</p> <p>■実施形態：学習指導案の説明5分／模擬授業時間25分／振り返り15分 ※通常、小学校において実施される45分の授業を25分に短縮</p>

表1に基づき、本模擬授業では、授業の撮影、Microsoft Formsを活用した振り返りの実施、それに基づく全体共有を実施した。本論文で行う模擬授業の分析は、それらから得られた、受講生及び講義担当教員の発言記録を基に行った

② 模擬授業実施に当たり作成された学習指導案

本模擬授業を実施するに当たり、以下のような学習指導案が作成された。

第 4 学年 1 組 道徳学習指導案

日 時：令和 6 年 1 月 30 日 (木) 第 2 限

授業者：氏名 【導入】 ○○ ○○

授業者：氏名 【展開】 ○○ ○○

授業者：氏名 【終末】 ○○ ○○

場 所： 第 4 学年 1 組 (小学校)

1 児童・生徒の実態・課題について (箇条書きでも構いません)

- ・級友に優しくすることができる。
- ・誰かのために行動している級友の優しさに気づいていない児童もいる。

2 子どもたちに理解してもらいたい道徳的価値 (内容項目) 感動・畏敬の念

3 教材について

(1) 教材名 「花さき山」(一)

(2) 教材について (概要)

省略

(3) 子どもたちに最も注目してもらいたい教材の箇所 (※箇条書きで記すこと)

- ・この花は、ふもとの村の人間が、やさしいことを一つすると一つさく。
- ・「おっかあ、おらはいらねえから、そよさ買ってやれ。」

(4) 本授業のねらい (※「○○を通して、△△に気づき、□□を養う」を踏まえつつ、適宜修正して作成ください)

あやが妹に優しくしたときの気持ちを考えることを通して、人のもつ心の美しさに気づき、身の回りの人の優しさを感じ取ろうとする態度を養う。

4 評価の観点 (※該当する観点に関して、どの段階に達成することが望ましいか記すこと)

省略

5 展開

過程	教師の説明・指示・発問	指導上の留意点
導入	1. 本時の考えたい内容をつかむ ○「美しいもの」ってどんなものだろう？ ・お花 ・夕焼け ・桜	「「どんなもの」で行き詰まる時には、「どんな時に感じるかな」と補助発問を加える。
展開	2. 「花さき山」を読む。 (1) 前半部分を読み、花がさく理由を考えさせる。 (2) 後半部分を読み、妹を優先した時のあやの気持ちを考える。 ○「おらはいらねえから、そよさ買ってやれ」と言ったとき、あやはどんな気持ちだっただろう。 ・妹が喜んでくれればいい ・お母さんにめいわくをかけたくない ・お姉ちゃんだからがまんしなくちゃいけない (3) なぜ咲くのが「花」なのかについて考える。 ○どのようにすると山に花が咲くのが分かりましたか。 ・村の人が優しくすると咲く ○どうして村の人の優しさが「花」となって咲くのでしょうか。自分の考えをノートに書いて、グループで伝え合しましょう。 ・優しい心はきれいだからきれいな花になる ・花は優しい感じがするから ・何かがもらえるから優しくするんじゃなくて、何ももらえなくても優しくするから、きれいな花がさいた。	・考えたことは授業の後半で聴くことを伝え、次の活動に移る。 ・吹き出しを用意することで気持ちを想像しやすくする。 ・自分の気持ちよりも他者の気持ちを大切にしているあやの優しさに気づかせる。 ・「悲しい」「悔しい」など、自己中心的な心情に留まっている発言が出た場合は、それでも辛抱できたのはなぜかについて考えさせる。 ・男の子の話にも触れ、優しくすると花さき山に花が咲くことを理解させる。 ・補助発問「どうして草や木ではないのかな？」 ・机間巡視をし、あやのこころの美しさと花の美しさの関係に触れている児童がいれば全体の場で発表させる。いなければ教材の「どんな祭り着よりもきれいだべ」に着目させ関係を考えさせる ・「きれいな宝石やお金ではだめなのかな」と揺さぶりをかけ、あやの優しさは自分のために行われていないことに気づかせる。
終末	3. 身の回りにの心の美しさについて考える。 (1) 身の回りにある「誰かのための優しさ」について考える。 ○身の回りにも誰かのためにやさしくしている人がいないか考えてみましょう。 ・給食当番の人が休むと、いつも A くんが代わってくれるよ。 ・B さんが今日の朝、昇降口の掃除をしていていました。 (2) 授業を振り返る	家族、友人の関係性だけでなく、周りに目を向ける。 補助発問「お友達が助けてくれたことはあるかな。」

(3) アンケートの回答結果とその分析

①学習指導案の作成に関する振り返り

学習指導案作成後、「花さき山」の教材研究を行った受講生より、Microsoft Teams を通じて以下のような回答を得た。まず、その質問事項は次のとおりである (表 2 参照)。

表 2 学習指導案作成に関するアンケート

1. 今回扱った読み物教材の名前を書いてください
*

回答を入力してください

2. 今回扱った読み物教材を読んだ感想を書いてください。*特に授業実践する上での感想をお願いします。
*

回答を入力してください

3. 今回の学習指導案を作成するにあたって、どのような感想を持ちましたか？
*

答えの選択

- 非常に難しかった
- 少し難しかった
- それほど難しくなかった
- 難しくなかった

4. 質問1について、「非常に難しかった」「難しかった」と回答した理由をお聞かせください (複数選択可)

- 読み物教材の登場人物の立場や状況が子供が想像するのが難しそうに思えたから
- 読み物教材の登場人物の立場に立つのが授業者自身としても難しかったから
- 読み物教材を通して伝えたいことを見定めるのが難しかったから
- 「学習指導要領解説」に記載された内容項目を授業に反映させるのが難しかったから
- 本教材を用いた授業の導入を考えるのが難しかったから
- 本教材を用いた授業の発問のつながりを考えるのが難しかったから
- 本教材を用いた授業の締めくくりを考えるのが難しかったから
- 本教材と子供の知識・理解・経験との結びつきをつけるのが難しかったから
- 授業で子供が何と答えるか想像するのが難しかったから
- その他

5. 質問1について、「それほど難しかった」「難しくなかった」と回答した理由をお聞かせください（複数選択可）

読み物教材の登場人物の立場や状況が子供が想像するのは難しくないように思えたから

授業者自身として、読み物教材の登場人物の立場に立つことは難しくなかったから

読み物教材を通して伝えたいことを見定めるのが難しくなかったから

「学習指導要領解説」に記載された内容項目を授業に反映させるのが難しくなかったから

本教材を用いた授業の導入を考えるのが難しくなかったから

本教材を用いた授業の発問のつながりを考えるのが難しくなかったから

本教材を用いた授業の締めくくりを考えるのが難しくなかったから

本教材と子供の知識・理解・経験との結びつきをつけることが難しくなかったから

授業で子供が何と答えるか想像するのが難しくなかったから

その他

6. 今回の学習指導案の作成に関して、全般的な感想を書いてください。*

回答を入力してください

「花さき山」を使用した学習指導案を作成した受講生3名の回答は次のとおりである(表3参照)。

表3 「花さき山」の学習指導案作成に関するアンケート回答結果

【受講生 A】

2.今回扱った読み物教材を読んだ感想を書いてください。※特に授業実践する上での感想をお願いします。

花さき山を読むにあたって、主人公を通して自己犠牲が中心になると感じた。しかし、読み返してみるとさまざまな見方が取れることに気づいて教材の難しさを感じた。

3.今回の学習指導案を作成するにあたって、どのような感想を持ちましたか？

非常に難しかった

4.質問1について、「非常に難しかった」「難しかった」と回答した理由をお聞かせください（複数選択可）

読み物教材の登場人物の立場に立つのが授業者自身としても難しかったから

本教材を用いた授業の導入を考えるのが難しかったから

5. 今回の学習指導案の作成に関して、全般的な感想を書いてください。

今回は実習とは異なり、複数の人と授業を作る難しさを感じた。道徳ということもあり、大切にしたいこと・授業で扱いたいことなど相違点が多くあるように思ったからである。しかし、別視点に気づくこともできるので、授業者側の道徳感を再考するきっかけになるように感じた。

【受講生 B】

2. 今回扱った読み物教材を読んだ感想を書いてください。※特に授業実践する上での感想をお願いします。

私たちは価値項目を「感動、畏敬の念」に決めた。特に「人の心の美しさ」に着目することで、どんな状況であれ、赤の他人に対してであっても人に優しくする心に気づかせることをねらいとした。教材には2つの事例が挙げられており、いずれも兄弟や家族という関係性において、弟や母のために我慢ができるという内容だった。しかし、私たちは兄弟や家族という関係性の中にとどまらず、どんな状況であれ、誰に対しても優しくできるという人の心の美しさに着目させたかったため、教材だけを使うのではなく、発問によって人の心の美しさの範囲を広げ、一般化する必要があると感じた。

3. 今回の学習指導案を作成するにあたって、どのような感想を持ちましたか？

少し難しかった

4. 質問1について、「非常に難しかった」「難しかった」と回答した理由をお聞かせください（複数選択可）

- 「学習指導要領解説」に記載された内容項目を授業に反映させるのが難しかったから
- 本教材を用いた授業の締めくくりを考えるのが難しかったから
- 授業で子どもが何と答えるか想像するのが難しかったから

5. 今回の学習指導案の作成に関して、全般的な感想を書いてください。

恐らく45分ないし50分間、授業を流すだけなら準備にそれほど時間はかからないと感じた。しかし、教材や価値項目について考えを深めていく中で、発問に対して子どもがどのように答えるか、他の価値項目の内容になっていないか、など考えることが多くなった。また、私たちは今回比較的抽象的な価値を扱うため、子どもの実生活とどのように結びつけるかということが難しかった。内包と外延という考え方を使うと、授業者の側も価値の定義をその都度確かめながら、子どもの立場になって価値と実生活との結び付きを考えることができると感じた。

【受講生 C】

2. 今回扱った読み物教材を読んだ感想を書いてください。※特に授業実践する上での感想をお願いします。

主人公たちの心を花にととえているので、「人の心の美しさ」がテーマになりそうだということや、価値項目を「感動、畏敬の念」にしようという見通しまでは決めやすい読み物でした。また、この物語で出てくる「人の心の美しさ」の具体的な出来事二つは、どちらも「自己犠牲を伴う優しさ」が表れているものでした。読んだ児童が「人の心の美しさ＝自己犠牲」という一面だけになってしまわないようにしないとなども思いました。

3. 今回の学習指導案を作成するにあたって、どのような感想を持ちましたか？

少し難しかった

4. 質問1について、「非常に難しかった」「難しかった」と回答した理由をお聞かせください（複数選択可）

- 本教材を用いた授業の発問のつながりを考えるのが難しかったから
- 本教材を用いた授業の締めくくりを考えるのが難しかったから
- 本教材と子どもの知識・理解・経験との結び付きをつけるのが難しかったから

☑ 授業で子どもが何と答えるか想像するのが難しかったから

5. 今回の学習指導案の作成に関して、全般的な感想を書いてください。

今回の構想ではあやの気持ちを想像した後に、身の回りにある「人の心の美しさ」に気づくことをねらいとしました。難しく感じたのは、物語を通して「自己犠牲の伴う優しさ」という美しさに気づいた後に、児童から身の回りにそのような美しさがあるという話がどれだけ出るのかという点でイメージがわかenかったことです。

学習指導案の作成及び模擬授業を担当した三人に共通する点は、以下のとおりである。

まず、授業づくり全般に関しては、「道徳授業で扱う価値を捉えるのが難しい」、「学習指導要領の内容との整合性をつけるのが難しい」、「子どもの発言を予測して発問を組み立てることが難しい」といった点で共通点が認められる。

さらに、子どもにおける道徳的価値の理解については、「自己犠牲に焦点が偏りすぎないように配慮しつつ、多角的に心の美しさを捉えさせる指導をすること」、及び「児童の生活経験とどこまで結びつけられるかイメージがしにくい」といったことがあげられている。

本模擬授業ならではの難しさとしては、「共同で授業を組み立てる場合に、道徳的価値の定義・目標が人によって異なり、授業者間での意見の相違が生まれる」ということが確認できる（ただし、それは、授業者の道徳観を見つめ直す契機になるというよさも挙げられている）。具体的には、教材の導入や終末に到る流れの構想、子どもの発言を想定することの難しさに加えて、子どもの体験を生かす方法の絞り込みに苦労がうかがえる。

②授業者による模擬授業の振り返り

模擬授業実施後、授業を行った学生（教師）より、Microsoft Teams を通じて以下のような回答を得た。その質問事項及び回答内容は次のとおりである（表4参照）。

表4 授業者による模擬授業の振り返り

1. あなたの属性を選んでください

授業者（教師）

2. 【授業者】実際に授業を行ってみて、学習指導案を作成していた時に浮かんだ悩みはどのように生かされましたか？

【A】美しいに関する定義の多様さに困惑しました。しかし、言葉の意味を調べると綺麗との違いから授業を作れるのではと思いました。

【B】価値項目の「美しいところに気づく」の気づくに軸を置いたことで、最後の修正が図れた

【C】今回の授業では人の心の美しさ、特に優しい心を扱った。指導案作成時、私は本教材で扱う価値項目である「感動、畏敬の念」と「親切・思いやり」を優しい心に着目するが故に授業者だけでなく児童が混同してしまうのではないかというものだった。グループで指導案を作成する中で、「感動、畏敬の念」の価値に迫るには人の優しい心に気づこうとする態度を育むことが重要であるという意見にまとまり、終末の活動で「身の回りにも誰かのためにやさしくしている人がいないか」という発問につながった。それが価値に迫るだけでなく、実生活における実践的態度にもつながると考えられるため、効果的だったのではないかと考えている。

3. 【授業者】実際に授業を行ってみて、読み物教材の掘り下げの際に難しかったところがありましたか？あれば、何か書いてみてください。※ない場合は「なし」と書いてください。

- 【A】** 導入時に展開に繋ぎやすいような発言ができなかったように思いました。「にじ」が出た時に自然のものだから美しいを子どもから拾えるようになると美しいものは何かに引き込めるように思いました。
- 【B】** 「人の心の美しさ」のメタファーである「花の美しさ」を取り上げることで、「あやの優しい心が美しい」ということに気づかせたかったのに、そのようにも展開できなかった。どのような発問をすればよかったのか考えたい。
- 【C】** 人の心の美しさという抽象的なものを児童にどう実感させるか
4. **【授業者】** 実際に授業を行ってみて、子どもの発言への返答で困ったことはありましたか？※ない場合は「なし」と書いてください。
- 【A】** 導入で持った意見に関して、どこまで返答すべきかに困りました。
- 【B】** 「きれいな宝石やお金ではだめなのかな」に対して「そっちの方がいい」は予測できたのにその対応を用意していなかったので混乱してしまった。「どうして同じきれいでも宝石じゃないのかな」がよかったかとも思ったが、そもそも難しいことを聞こうとしていたのかもしれない。
- 【C】** なし
5. 本授業に関する全般的な感想を書いてください。
- 【A】** 道徳の授業は小学校で受けたのが最後だったので、授業のイメージが乏しかったこともあり、授業を作成することが難しかったと感じました。来年には授業をする立場になる可能性もあるので、模擬授業を通して学ぶことができよかったですと思います。
- 【B】** 子どもの反応の予想が甘かったのと、自分自身が発問の意図を落とし込めていなかったので修正できなかったのが反省です。
- 【C】** 私が初めて教材を読んだときの印象として「感動、畏敬の念」を扱うことへの難しさから価値を児童に理解してもらうことに注力をした。それによって児童が価値を理解することはできたと思われるが、一方で、児童が価値を自分事として捉えることが不十分に終わったと感じる。価値の理解も重要だが、それだけにとどまらず自分と関連させて捉えることのできる授業を構想・実践することが課題になった。

模擬授業を行った三人の感想に共通する点は、以下のとおりである。

「道徳科の指導の経験・イメージ不足による戸惑いがあったこと」、「児童の反応の予測や発問の意図を考えることが不十分であったこと」、「道徳的価値を扱うだけでなく、自分事として捉えさせる必要性があったこと」が課題としてあげられた。

こうした課題は、発問の構成や授業展開の工夫によって解消を図る必要があるものと考えられる。模擬授業の振り返りを通して、道徳科の授業の意義と難しさが認識されたことを踏まえ、今後は、子どもの多様な反応を見越して、発問の意図を明確化した柔軟な展開を構想することが求められるといえる。そのうち特に大切なことは、子どもが道徳的価値を自分と関わるものとして捉える点にあるといえるだろう。

こうした点は、道徳科の授業が一方通行的な価値の提示に終わらない形で構想・実践されるべきことを伝えてくれる。これまで、教師の力量は、子どもの発言や反応を捉え、臨機応変に授業を修正できる点にあることが認められてきたが、子どもからどのような発言が出るかわからない道徳科の授業では、その点が一層重視されることになる。とりわけ、発問の目的・効果を明確化し、子どもの主体的な思考を促す指導法の探究が不可欠である。

③受講者（子ども役）による模擬授業に関する感想

模擬授業実施後、授業を受けた学生（子ども）より、Microsoft Teams を通じて以下のような回

答を得た。その質問事項及び回答内容は次のとおりである（表5参照）。

表5 受講者による模擬授業の振り返り

<p>1.あなたの属性を選んでください 受講者（子ども）</p> <p>2.【受講者】実際に授業を受けてみて、授業者の発問で答えにくかった／考えにくかったところ はありましたか？あれば、何か書いてみてください。※ない場合は「なし」と書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none">・まとめの優しいと感じたところはどんなところがあったのか・美しいものとは何か？という発問が4年生にとっては難しいかもしれないと感じた。・なぜ、草や木ではなくて花なのかという問いが、自然には自然の美しさがあるので草や木でも いいのではないかと考えてしまう自分がいて難しく感じた。・どうして咲くのが「花」なのかという質問は、難しく感じた。ただ、ダメな例（草や木じゃな く花なのか）をそのあととってくださったので、聞きたいことは理解することができた。・行動を考えるのか、その行動をとった時の気持ちを考えるのかがあやふやになっている部分 があり、そこは答えにくく感じた。 <p>3.【受講者】実際に授業を受けてみて、教材についてもう少し掘り下げたかった（もっと考えた かった）ところがありましたか？あれば、何か書いてみてください。※ない場合は「なし」と 書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none">・あやの咲かせた花は赤色で、ふたごのお兄ちゃんが咲かせた花は青色だったこと。（咲かせる 花の色は異なっていること）・しんぼうしないと花は咲くことがないのか。人の我慢などの上でしか優しさや心の美しさは語 ることができないのか。・なぜ花なのかという発問に重みがあったので、ねらいである「あやが妹に優しくしたときの気 持ちを考える」という点について、少し浅くなってしまっていたのではないかなと感じた。ど うして優しさが花として現れるのかを、あやと繋げて考えることができるような発問がある と、あやの心情についても触れることができたのではないかなと思う。 <p>4.【受講者】実際に授業を受けてみて、最も頭に残ったことはどのようなことでしたか？</p> <ul style="list-style-type: none">・なぜ花でなくてはいけなかったのか考えることが [筆者注：以下記載なし]・身近にも花が咲くような体験があるのかもしれない、ということ・美しいものが宝石などではなく、花なのは見返りなどを求めず、自身のことよりも相手のこと を考慮することができることを美しいと捉えるからだという旨の言葉。・どうして草や木ではなくて花なのか。・グループで「なぜ咲くのが「花」なのか」について考えた後の全体共有。・自分と同じくらい相手を大切にすることが大事で、それを当たり前だと思わない。 <p>5.本授業に関する全般的な感想を書いてください。</p> <ul style="list-style-type: none">・板書が分かりやすく、見やすい板書であった。また、展開が非常に印象的で何を考えればいい のかなど発問や指示が的確であり、非常に授業に参加しやすかった。・板書が図式化されていて、とても分かりやすかった。なぜ優しいことをすると花が咲くのかと いう問いの部分で、一度確かかと思わせた後にもう一度宝石を出して揺さぶることで、より納 得感を抱くことができました。終末の部分では、「花が咲いているかもしれないね」と教材で の表現を用いることで、人の優しさに気づこうとする心が育てられるかなと思いました。また、 これは主人公である「あや」と同じ考え方なのでとても分かりやすかったです。話すスピード がゆっくりで、声も低めでとても安心感のある授業でした。ありがとうございました。・相手を思い、優しくしたり、時には自身が辛抱したりすることは、花が咲くように美しいこと だということを授業を通して考えさせられる授業だったと感じる。

- ・心の美しさという抽象的な内容であったので、難しいと感じた。自分の心に気が付いていなかったり、気が付いているけれどそこから目を背けたりしてしまっている児童に、どのように自分のもっている美しい心と向き合わせるのかを考える必要があると感じた。
- ・最後の「身の回りの心の美しさについて考える」活動で、クラス内のことについて聞いたことがよかったと思った。身の回りなので家族でもよいと思ったが、クラス内に限定することによって、やさしくした側の人にもなぜやさしくしたのか理由を聞くことができるので、どういうことをするとやさしいかとみんなが感じるのかを認識できる機会にもなると感じた。
- ・ひとつひとつつかみ砕いていくような発問で展開がされていていたため、流れに一貫性があったと思う。板書の図が分かりやすかった。どうして咲くのが草や木じゃなくて花なのか考えさせてから、宝石やお金とも比較させていたのが面白かった。

この度行われた模擬授業の良かったところとして、特に、「板書の分かりやすさ」「図式化された板書」があげられた。授業を行った学生いわく、元々の授業準備の段階で三人の間で共通理解が図られていたものではなかったものの、受講者が分かりやすく教材の内容を捉えるためにはどのような板書にすべきかということ念頭において、板書の整理がなされたそうである。これはまさに、授業展開に応じて臨機応変な対応がなされたことを証している。

ただし、そのような板書のもつ効果は、教材研究、ひいてはそれをわかりやすく伝える発問の工夫・精選があつてこそである。その点、最後に記載されている通り、「ひとつひとつつかみ砕いていくような発問」が出されたのは、受講者の思考を促すことに結びついたといえる。たしかに、「なぜ花が咲いたのか／花でなくてはならないのか」という主旨の意外性を備えた発問の後、「宝石やお金が表れること」と対比的に考える学習活動を設けた点については様々な立場が示されている。だがそれでも、そのような発問の工夫それ自体については意欲が感じられる。実際の効果については、当初予定した通りの成果をあげなかったかもしれないが、それでも特に模擬授業のような場では意欲的な取り組みが大切になってくるはずである。日常行われる授業準備の段階でも、そのようにできるだけ制限を設けずに発問の構想を行うことで、子どもの思考が開かれる授業づくりがなされることが期待される。

おわりに

以上の考察を通じて、発問の工夫・精選の重要性が改めて認識された。特に、子どもがすでに知っていると思っている道徳的価値や、あまり身近ではない道徳的価値を学ぶ時には、一風変わった発問も有効であることが認められた。今後も、教材と子どもに即した道徳科の授業づくりのポイントを探っていきたい。

謝辞

本研究の一部は日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究B(課題番号 23H00993, 研究代

表者：打越正貴）の助成を受けて行われた。

注

- 1) 本論文では、「学習指導要領」の表記にしたがい、「感動、畏敬の念」と記した。本論文に用いた読点（、）と「，」が混在する形にはなるものの、元の表記を生かす観点から「感動、畏敬の念」と記すこととした。また、「考え、議論する道徳」についても同様の対応とした。
- 2) 文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編」, 18.
- 3) 「花さき山」の教材研究・授業づくりに関して考察した先行研究としては、例えば、次を参照。青木孝頼（編著）『道徳授業に生きる基本発問 中学年』（明治図書, 1991）や坂本哲彦『道徳授業のユニバーサルデザイン』（東洋館出版社, 2014）や新宮弘織『道徳授業ハンドブック 5 教材をどう読むか どう発問するか』（光文書院, 2021）など、時代を超えて各種の書籍が刊行されている。
- 4) あやが自分よりも妹を優先することの素晴らしさは、頭の中でも、また自分の経験からもよくわかる。にもかかわらず、授業構想に際し、教材末尾の「あっ、今花さき山で、おらの花がさいてるな。」というあやの思いを掘り下げた先が見えてこない。「どうしてあやはそう思ったのでしょうか」という理由を問う発問も、「そう思わなかったら、あやはその後どのように生きていったでしょう」といった仮定を問う発問も有効にはたらいてくれそうにない。この点が「花さき山」を授業で取り上げることを難しくしていると考えられる。
- 5) 例えば、中村優輝は、「感動、畏敬の念」という内容項目について、「この内容項目では、偉人が登場する教材も多いです。ただし、すごいと感じたとしても、それを言語化することは簡単ではありません」と記しています。中村優輝『内容項目から始めよう 直球で問いかける小学校道徳科授業づくり』（東洋館出版社, 2022）, 116.